

ワケ カタチには理由がある(75)

～ポテ(Potez)75



本機は、1953年に初飛行した、フランスのポテ社が第二次世界大戦後に試作した地上攻撃機です。戦前、フランスは航空機大国でしたが、戦争中ドイツに占領され、航空機開発が全くできなかったことにくやしさを晴らすように、戦後、多様な実験機を試行錯誤します。固定脚のプロペラ機で、さらに、双胴でプッシャー式という特異な外観を有していました。胴体背中に載せた流線形のキャノピーが独特の外観を与えており、機首と合わせて離れた2つのキャビンに有していました。このレイアウトは、当時フランスが開発した有線式のノード SS.10 地戦車ミサイルを運用するためのもので、ミサイルのオペレータは、前方を見渡せる機首のキャビンに座り、パイロットは胴体背中のキャビンに座りました。評価の結果、ミサイルプラットフォームとしては十分な性能を有しないと判断され、量産はされませんでした。ミサイルが発射されても、のんびり飛ぶこの母機を打ち落としてしまえばミサイルは無効になるので(いわば「ヤマト 2199」の反射衛星砲、商標国際出願のセントラルアタック：業界の人しかわからないw)、飛行機を有線式ミサイルの母機にするには無理があったのでしょうか。

【模型について】

日本のガレージキットメーカー、赤とんぼワークス(Akatombo-works)製 1/72 のレジンキットです。同工房の K さんは、パソコン通信時代の Nifty-Serve・模型フォーラム(「エフ模」)以来、20年以上の付き合いになる模型友人ですが、数多くの魅力的なマイナー機をキット化してくれています。マイナー機ファンとしては、よくぞ日本に彼がいてくれた、と思う次第です。ワンダーフェスティバル(コロナ禍で中止が続きますが…)などで入手することができます。(中川裕幸 2021年5月)